

Care and Maintenance

UV INKJET PRINTER
JFX200-2513 EX
JFX200-1213 EX
お手入れのお願い

本書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

目次

はじめに	3
安全にお使いいただくために	4
マーク表示について	4

メンテナンス

1. 日常のお手入れについて	6
お手入れを行うタイミング	6
お手入れのご注意	7
設置環境について	7
作業環境などに関するご注意	7
メディアの保管について	8
インクボトルの保管について	8
作図不良の例	9
2. 毎日行うお手入れ	10
ヘッド周辺のメンテナンス	10
ヘッドノズル面のメンテナンス	12
ワイパーとキャップの清掃	14
NCUの清掃	19
3. 定期的に行うお手入れ	20
ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)	20
4. 1週間に1回行うお手入れ	23
外装のお手入れ	23
テーブルのお手入れ	23
インク排出路の洗浄	24
廃インクを廃棄する	25
ステーション周辺の清掃	26
5. 1～2週間に1回行うお手入れ	29
キャリッジフィルターの交換	29
MBISのお手入れ	30
6. エラーが表示されたら行うお手入れ	31
冷却水の補充について	31
ワイパーを交換する	33
7. 必要に応じて行うお手入れ	35
LED UVユニットの清掃	35
イオナイザーのお手入れ	35
インクボトルキャップの交換	35

はじめに

この度はUVインクジェットプリンター JFX200-2513EX, JFX200-1213EXをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、お手入れのお願い（以後、本書と称します）をよくお読みいただき、十分に理解してから使用してください。

本書で使用しているイラストは、機能や手順、操作の説明を目的としており、本機と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 2019 株式会社ミマキエンジニアリング

● 免責事項

- JFX200-2513EX, JFX200-1213EX（以後、本機と称します）の故障有無に関わらず、本機をお使いいただいたことによって生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機により作成された製作物に対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 弊社推奨品以外の装置などを使用すると、火災、または本機の破損事故のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 弊社純正インク、メンテナンス液をご使用ください。それ以外を使用すると、プリント品質の低下、本機の故障のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- インクボトルのインクを詰め替えないでください。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 弊社純正不凍液をご使用ください。それ以外の不凍液を使用すると、冷却装置が故障するおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- UV-LEDユニット、UV電源装置は、弊社純正品以外は絶対に使用しないでください。弊社純正品以外を使用すると、本機の故障、感電、火災のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味を理解し、本機を安全に正しくお使いください。

● マーク表示の例

内 容		
 警告	警告	この指示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷のおそれがある内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
 注意	注意	この指示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度の負傷のおそれがある内容を示しています。
 一般警告	一般警告	注意しなければならない事項を示しています。具体的な注意事項は▲の中に描かれます。
 一般強制指示	一般強制指示	実行しなければならない事項を示しています。具体的な指示内容は●の中に描かれます。
 一般禁止	一般禁止	してはいけない事項を示しています。具体的な禁止内容は⊘の中に描かれます。
 重要!	重要	本機をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
 ヒント	ヒント	知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
 参照情報	参照情報	関連する内容の参照ページを示しています。文字をクリックすると該当ページが表示されます。

メンテナンス

本機の精度を保ちながら末永くお使いいただけるように、使用頻度に応じて定期的にお手入れをしてください。
メンテナンスに関する注意事項をよくお読みになってから、お手入れをしてください。

1. 日常のお手入れについて

JFX200-2513EX, JFX200-1213EX（以後、本機と称します）は非常に微細なメカニズムを持つ精密機械です。特にインクを吐出するヘッドのノズル面は、わずかなホコリや紙粉の付着でも影響を及ぼし、正常なプリント結果を得られなくなる可能性があります。

より良い状態でご使用いただくために、以下のお手入れを日常行われることをお勧めします。

お手入れを行うタイミング

お手入れを行うタイミング	お手入れ項目（参照ページ）
毎日（1日の作業終了後）	☞ 「ヘッド周辺のメンテナンス」 (P. 10)
	☞ 「ヘッドノズル面のメンテナンス」 (P. 12)
	☞ 「ワイパーとキャップの清掃」 (P. 14)
	☞ 「NCUの清掃」 (P. 19)
1週間に2回	☞ 「ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)」 (P. 20) (PR-200Ver.2の場合)
1週間に1回（週末の作業後）	☞ 「外装のお手入れ」 (P. 23)
	☞ 「テーブルのお手入れ」 (P. 23)
	☞ 「インク排出路の洗浄」 (P. 24)
	☞ 「廃インクを廃棄する」 (P. 25)
	☞ 「ステーション周辺の清掃」 (P. 26)
1~2週間に1回程度	☞ 「キャリッジフィルターの交換」 (P. 29)
	☞ 「MBISのお手入れ」 (P. 30)
1ヶ月に1回	☞ 「ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)」 (P. 20) (PR-200Ver.3の場合)
エラーが表示された場合	☞ 「冷却水を補充する」 (P. 32)
	☞ 「ワイパーを交換する」 (P. 33)
必要に応じて行うお手入れ	☞ 「LED UVユニットの清掃」 (P. 12)
	☞ 「イオナイザーのお手入れ」 (P. 35)
	☞ 「インクボトルキャップの交換」 (P. 35)

お手入れに必要な道具

F-200/LF-200 メンテナンス液（品番：SPC-0568）	PR-200 メンテナンス液（品番：C-ML013-Z-B2-1-KW） *PR-200インク使用時
綿棒	ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）
柔らかい布	手袋

お手入れのご注意

本機のお手入れをするとき、次の各事項にご注意ください。



- LED UV装置は非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、LED UV装置消灯後、十分温度が下がってから行ってください。やけどのおそれがあります。



- 電源ボタンをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因となります。
- 長期間使用しない場合は、必ず電源ケーブルをコンセントから抜き、セットしてあるメディアを取り除いてください。



- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。



- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。
- メンテナンス用洗浄液やインクが、カバーに付着しないように注意してください。カバーの表面が変質、変形します。
- UVインク（紫外線硬化インク）は、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面およびヘッド周辺やキャップ、ワイパーなどへは、水またはアルコールを付着させないようにご注意ください。



- 本機やインクボトルの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。



- 本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損の原因になります。

設置環境について

- 粉塵のある場所では使用しないでください。プリンター本体の不具合、印刷不良の原因になります。
- 本機は安定したプリントを行うために、+15℃～+30℃（59°F～86°F）、35～65% Rhの環境でご使用ください。

作業環境などに関するご注意

印刷設定やメンテナンスを行う頻度については、印刷を行う作業環境や使用するメディアの条件などが大きく影響します。次の各項目を十分に理解して、本機をお使いください。

● ホコリやチリが多い環境の場合

- ノズル面を清潔に保つため、約1500mm印刷毎に定期ワイピングを行うように設定してください。（取扱説明書 3章「ノズル面の清掃頻度を設定する」）
- ホコリなどの量により、定期ワイピングの設定を変更してください。

- **メディアから繊維が飛び出しているなどの理由で、ヘッドギャップ値を大きく設定している場合**
- **ガラスや光沢金属など、UV光を反射しやすいメディアを使用している場合**
 - ・ 飛散ミストが多い状態でUV光がノズルに暴露する場合があります。作図中のリフレッシュレベルを上げて、定期ワイピングを設定してください。
(取扱説明書 3章「その他の設定」)
(取扱説明書 3章「ノズル面の清掃頻度を設定する」)
 - ・ 各種メンテナンスを行う頻度を増やしてください。
- **使用率の低いインク（プリントヘッド）がある場合**
 - ・ 使用率の低いプリントヘッドは、他のプリントヘッドと比較してインクの吐出が不安定になる傾向があります。作図中のリフレッシュレベルを上げて、ヘッド使用率を一定以上にしてください。
(取扱説明書 3章「その他の設定」)
- **静電気が帯電しやすいメディアに印刷する場合**
- **湿度の低い環境で印刷する場合（冬期など）**
 - ・ 加湿器を置くなどして、帯電対策を十分に行ってください。静電気によりミストやホコリが印刷エリアやヘッド周辺に集まりやすくなります。長時間の連続した印刷を行う場合は、定期ワイピングを設定してください。
(取扱説明書 3章「ノズル面の清掃頻度を設定する」)
- **凹凸の多いメディア（立体物）に印刷する場合**
 - ・ できる限りヘッドギャップが一定になるように、吸着エリア内の印刷するメディアをセットしている場所以外にも、不要のメディアなどをセットしてください。反射光によるヘッドの劣化を長期間放置すると、ヘッド交換を必要とする故障の原因となる場合があります。

メディアの保管について

メディアは、ほこりが付きにくく直射日光が当たらない場所に保管してください。また湿度も嫌いますので高温多湿な場所での保管は避けてください。

インクボトルの保管について

次の事項に注意して保管してください。

- ・ 直射日光があたり、湿度の高くない場所に保管してください。
- ・ インクボトルを落下させたりぶつけたりしないでください。
- ・ インクICチップは、汚したり、静電気放電させないでください。
- ・ インクボトルとインクICチップは必ず一緒に保管してください。

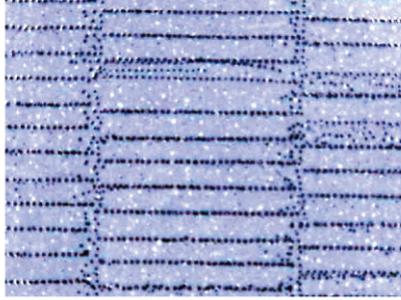


インクボトルとインクICチップ

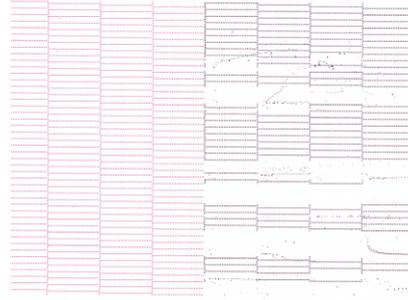
作図不良の例

ホコリなどを原因として発生するヘッド（ノズル）の吐出不良が、作図に及ぼす代表的な例を示します。このような状態で使用しないように、出力前や出力中に定期的にノズルの状態を確認してください。ノズルの状態は、本機の「テストプリント」で確認できます。

（取扱説明書 2章「テストプリントを行う」）



飛行曲がり



ノズル抜け



ポタ落ち



しぶき

2. 毎日行うお手入れ



- ヘッド周辺/キャッピングステーション/ワイパーを清掃するときは、ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）をお使いください。通常の綿棒をお使いになると、糸くずが残って二次障害を引き起こすことがあります。
- キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパーは、必ず毎日メンテナンスをおこなってください。汚れたままにした場合、ノズル面に汚れが付着したり、ノズルにゴミや凝固インクをこすりつけ、吐出不良が発生する恐れがあります。
- キャリッジ下面がインクやホコリの付着により汚れないように、必ず毎日清掃をおこなってください。汚れたままの状態にしておくと、ヘッドクリーニング時のワイプ動作でノズルにゴミや凝固インクをこすり付けてしまう恐れがあります。
- キャリッジ下面を清掃する場合、ノズル面をこすらないよう、十分に注意してメンテナンスをおこなってください。

ヘッド周辺のメンテナンス

ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れの際には十分な注意が必要です。

スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがありますので、クリーンスティックなどでこすり落としてください。その際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

清掃に必要な道具	• ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）	• 保護メガネ	• 手袋
----------	--------------------------------	---------	------



- インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。



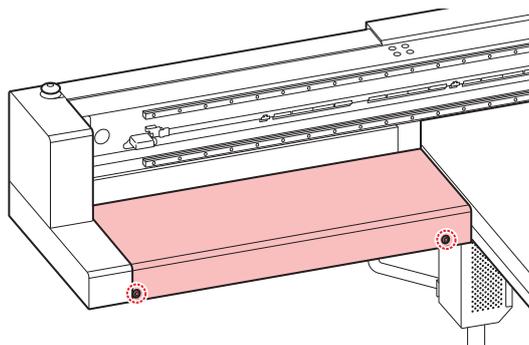
- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。



- キャリッジ下面がインクやホコリの付着により汚れないように、必ず毎日清掃をおこなってください。汚れたままの状態にしておくと、ヘッドクリーニング時のワイプ動作でノズルにゴミや凝固インクをこすり付けてしまう恐れがあります。
- キャリッジ下面を清掃する場合、ノズル面をこすらないよう、十分に注意してメンテナンスをおこなってください。

1 Yバー左側のカバーを外す。

- ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。



2 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト

[ENT]

3 [ENTER]キーを押す。

イドウ イチ

: ステーション メンテナンス

4 ▲ ▼を押して、[ヘッド メンテナンス]を選ぶ。

イドウ イチ

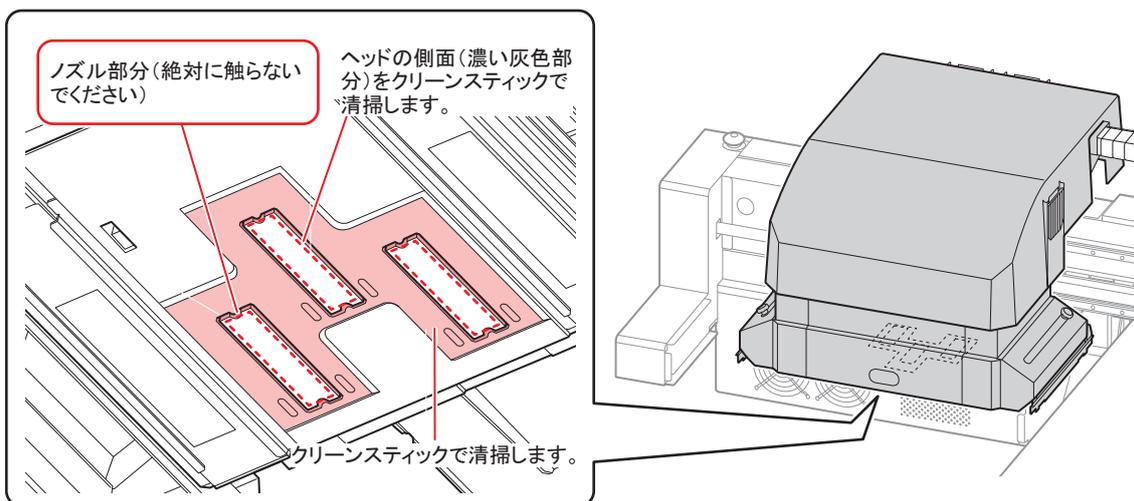
: ヘッド メンテナンス

5 [ENTER]キーを押す。

- ・ キャリッジが、本機の左端まで移動します。

6 ヘッドの側面やキャリッジ下面などに付着したインクをクリーンスティックで拭き取る。

- ・ ノズル部分は、絶対にこすらないでください。



重要!

- ・ 写真のような状態になるまで、清掃してください。
- ・ ノズル面にキャップゴムの形が付いている場合、ノズル面も清掃してください。
- ・ メンテナンス途中で席を離れる場合、[ENTER]キーを押して清掃を終了してください。そのまま放置すると、外光の影響でインクが硬化し、ノズル詰まり等の弊害を及ぼす恐れがあります。



7 清掃が終了したら、[ENTER]キーを押す。

ヘッドメンテナンス
シュウリョウ [ENT]

LED UVユニットの清掃

LED UVに付着したインクやホコリなどを定期的に清掃してください。

- 重要!**
- LED UVの清掃時には、ユニット下面の照射部を傷つけないように注意して、丁寧に清掃してください。照射部に一定以上の汚れや遮光物があると、インクの硬化不良によるバンディングが発生する原因になります。

ヘッドノズル面のメンテナンス

吐出の抜けや曲がりの予防としてヘッドノズル面をメンテナンス液11、またはメンテナンス液15で清掃してください。



- ヘッドノズル面の清掃は、メンテナンス液11、メンテナンス液15以外は使用しないでください。本機の故障や吐出不良の原因になります。



- プリントヘッドは非常に繊細なメカニズムを採用しております。お手入れの際には十分に注意してください。

清掃に必要な道具

- ヘッド周辺用クリーンステック（品番：SPC-0527）
- メンテナンス液11
- メンテナンス液15



- インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。



- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。

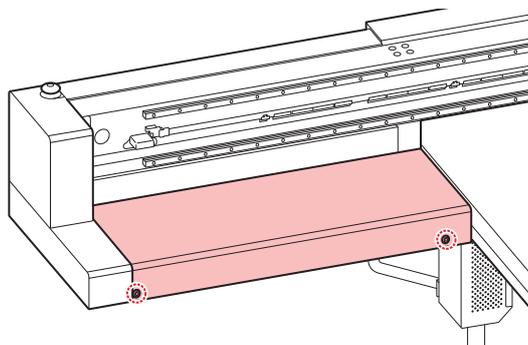


1 ヘッドクリーニング[ノーマル]を実施する。ヘッドクリーニング

- ノズル面にインクの付着がないように、メンテナンス前にクリーニングを実施してください。

2 Yバー左側のカバーを外す。

- ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。



3 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト

[ENT]

4 [ENTER]キーを押す。

イドウ イチ

:ステーション メンテナンス

5 ▲ ▼を押して、[ヘッド メンテナンス]を選ぶ。

イドウ イチ

:ヘッド メンテナンス

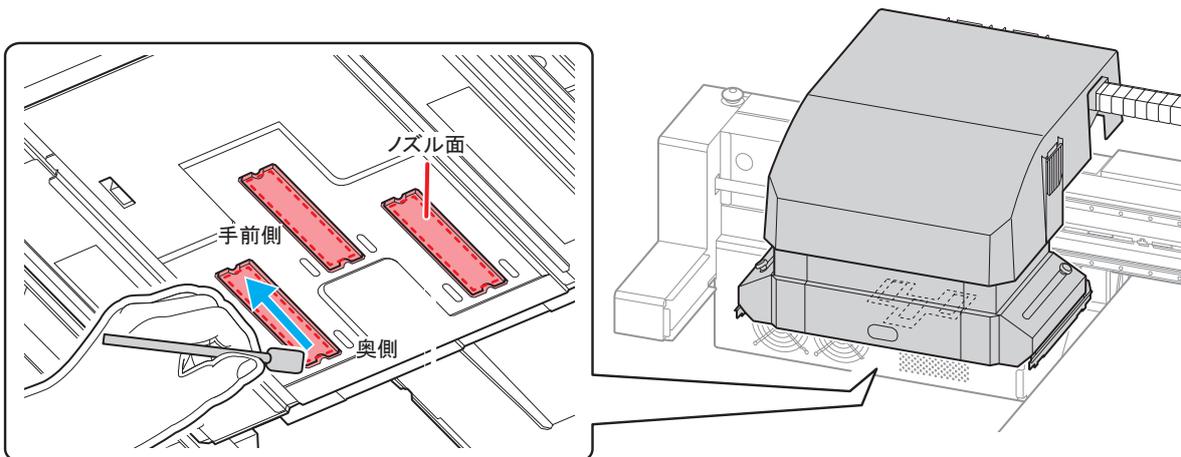
6 [ENTER]キーを押す。

- ・ キャリッジが、本機の左端まで移動します。

7 クリーンスティックにメンテナンス液を染み込ませる。

8 プリントヘッドノズル面を清掃する。

- ・ ヘッドの奥側から手前に向けて、クリーンスティックでヘッドノズル面を清掃してください。



- ・ 必ずクリーンスティックで清掃してください。
- ・ ノズル面をこすったり、スポンジ部を指で強く押さえつけたりしないでください。ノズル面が傷つき、吐出不良の原因になります。
- ・ 一度使用したクリーンスティックは再利用しないでください。ノズル詰まりの原因になります。

9 清掃が終了したら、[ENTER]キーを押す。

ヘッド メンテナンス

シュウリョウ

[ENT]

10 ヘッドクリーニング[ノーマル]を実施する。ヘッドクリーニング

ワイパーとキャップの清掃

- 重要!**
- 週に2回程度（プリンタの使用頻度により異なります）、ワイパーと周辺の清掃をしてください。
 - ワイパーの汚れ、曲がりかひどい場合は、新しいワイパーと交換してください。
☞ 「ワイパーを交換する」 (P. 33)
 - 清掃の際は、クリーンスティックの繊維が残らないように注意してください。繊維が残っていると、プリント不良の原因になります。

1 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト
[ENT]

2 [ENTER]キーを押す。

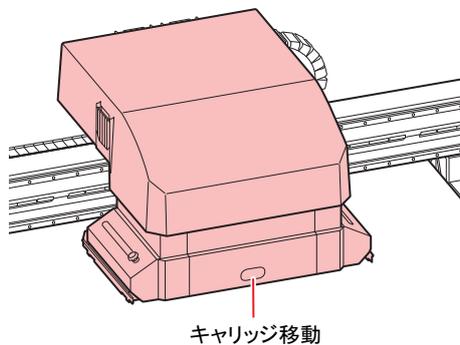
イドウ イチ
: ステーション メンテナンス

3 ▲ ▼を押して、[ステーション メンテナンス]を選ぶ。

イドウ イチ
: ステーション メンテナンス

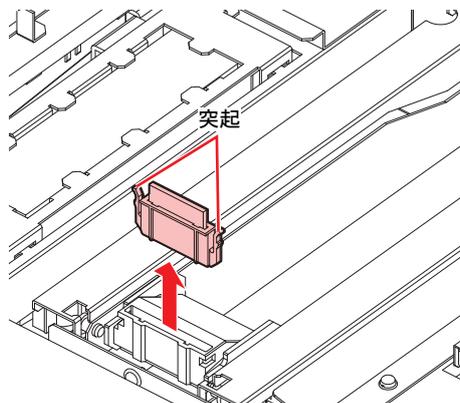
4 [ENTER]キーを押す。

- キャリッジがテーブル上に移動します。



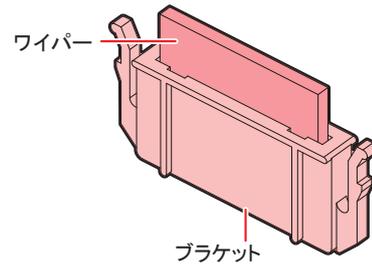
5 ワイパーを取り出す。

- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。

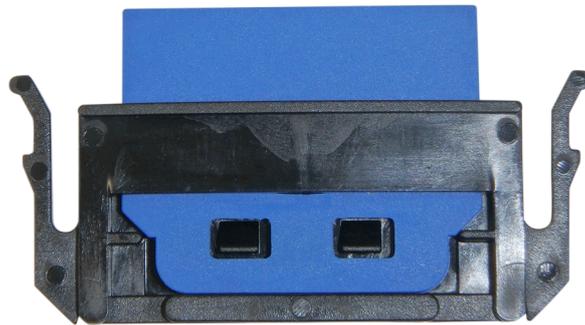


6 ワイパーとブラケットを清掃する。

- ワイパーとブラケットに付着したインクを、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



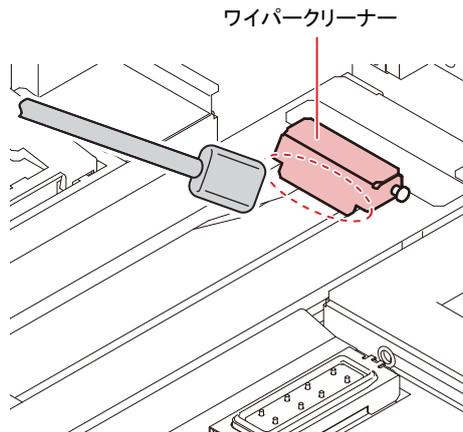
-
- 重要!** • 写真のような状態になるまで、清掃してください。



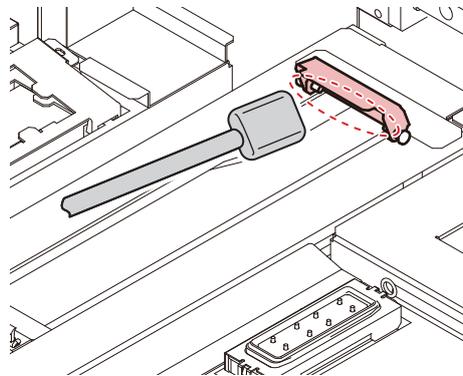
- 清掃後はワイパーとブラケットが水平になっていることを確認してください。
-

7 ワイパークリーナーを清掃する。

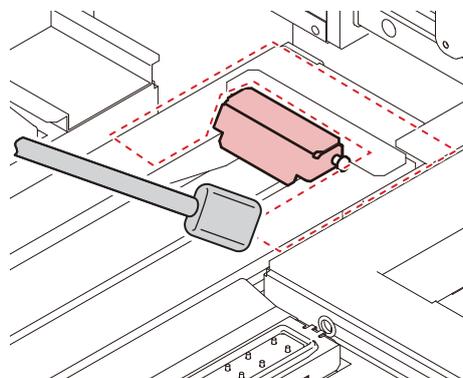
- ワイパークリーナーの先端をクリーンスティックで拭き取ります。



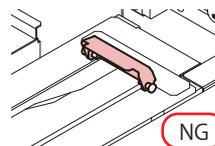
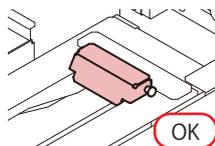
- ワイパークリーナーを上へ持ち上げて、内部に付着したインクをクリーンスティックで清掃します。



- ワイパークリーナーの周辺を清掃します。

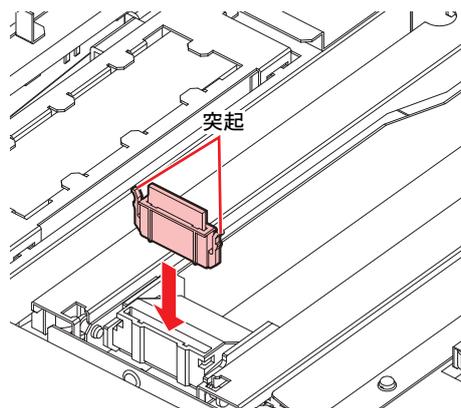


- ワイパークリーナーはブラケットから取り外さないでください。
- ワイパークリーナーのワイパーは、表面のみ清掃します。(裏面は清掃の必要はありません)
- ワイパークリーナー清掃後は、クリーナーが上を向いていないことを確認してください。



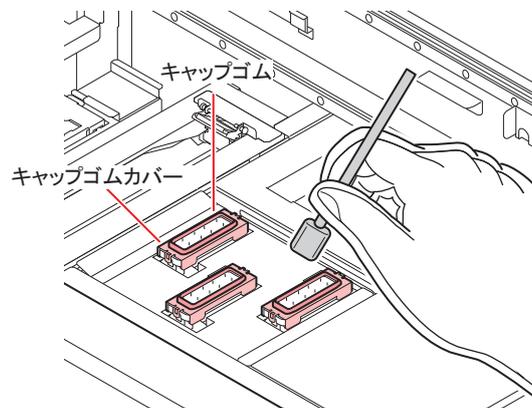
8 ワイパーを元の位置に戻す。

- ・ワイパーの両端を持って差し込みます。

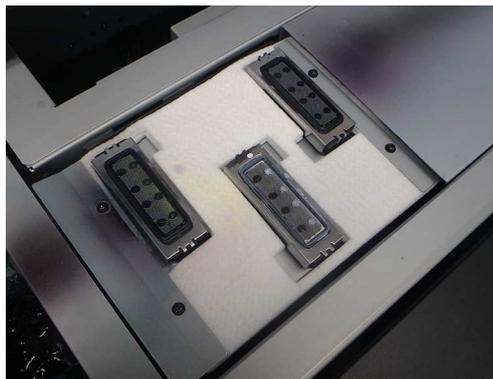


9 キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する。

- ・キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



- 重要!** ・写真のような状態になるまで、清掃してください。



- ・清掃後は、キャップゴムやキャップ内メッシュが外れていないことを確認してください。

10 清掃が終了したら、[ENTER]キーを押す。

- ・初期動作後、手順1の表示に戻ります。

[MAINT.]キーを使わずにステーションメンテナンスをするには

[MAINT.]キーを押さずに、ローカルから[FUNCTION]キーを使って[ステーションメンテナンス]を選ぶことができます。

- 1 ローカルで[FUNCTION]キーを押す。
- 2 ▲ ▼を押して[メンテナンス]を選ぶ。
- 3 [ENTER]キーを2回押す。
 - ローカルから[MAINT.]キーを押したときと同じ状態になります。

NCUの清掃

NCUにはインクやホコリが付着します。

インクやホコリが付着していると、正常な動作ができなくなる場合があります。

- 1 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト

[ENT]

- 2 [ENTER]キーを押す。

イドウ イチ

: ステーション メンテナンス

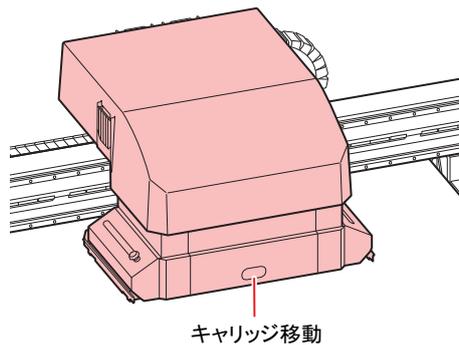
- 3 ▲ ▼を押して、[ステーション メンテナンス]を選ぶ。

イドウ イチ

: ステーション メンテナンス

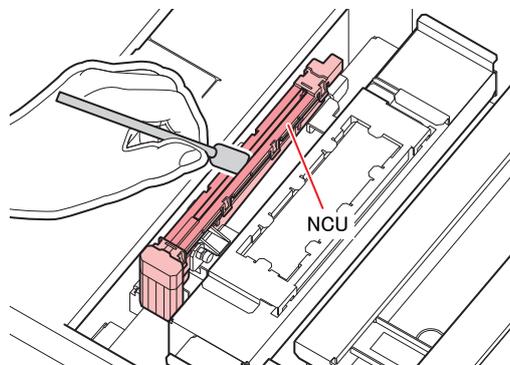
- 4 [ENTER]キーを押す。

- キャリッジがテーブル上に移動します。



- 5 NCUに付着したインクやホコリを拭き取る。

- メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティック（SPC-0421）で、表面と内側を拭き取ります。
- メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



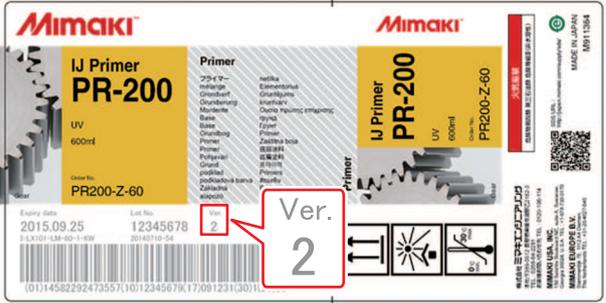
- 6 清掃が終了したら、[ENTER]キーを押す。

- 初期動作後、手順1の表示に戻ります。

3. 定期的に行うお手入れ

ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)

PR-200 を搭載している機種は、ノズル詰まりが発生することがあります。PR-200インクカートリッジ・パック・ボトルのラベルに表記されているVer.を確認し、Ver.2の場合は1週間に2回、Ver.3の場合は月1回の頻度でノズルを洗浄してください。

ラベル Ver. 表記位置	
220mL カートリッジ	250mL ボトル
	
600mL パック	1L ボトル
	
必要なメンテナンス液	<ul style="list-style-type: none"> • F-200/LF-200メンテナンス液 (SPC-0568) • PR-200メンテナンス液 (C-ML013-Z-B2-1-KW)

1 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト

[ENT]

2 ▲ ▼を押して、[ノズル センジョウ]を選ぶ。

ノズル センジョウ

[ENT]

3 [ENTER]キーを押す。

- キャリッジが移動します。

ワイパー クリーニング

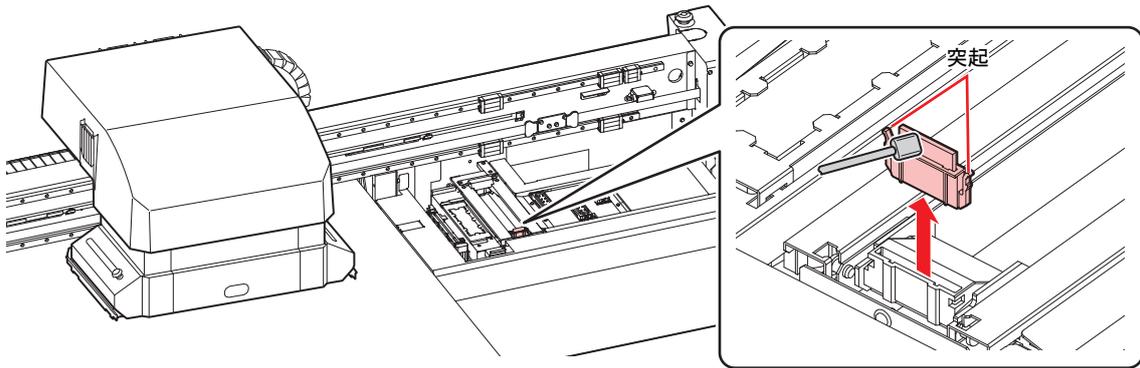
シュリョウ(ツギへ) [ENT]

- 重要!** ・ワイパーのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギへ) : ENT]が表示されます。手順4の作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。クリーニングが終了する前に[ENTER]キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

4 ワイパーとブラケットを清掃する。

- (1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く。
- (2) クリーンスティックにF-200/LF-200メンテナンス液(SPC-0568)を含ませて清掃する。
 - ・ F-200/LF-200メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- (3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む。

- 重要!** ・ワイパー、ブラケット、キャップゴム、キャップゴムカバーの清掃には必ずF-200/LF-200メンテナンス液を使い、PR-200メンテナンス液(C-ML013-Z-B2-1-KW)は使用しないようにしてください。



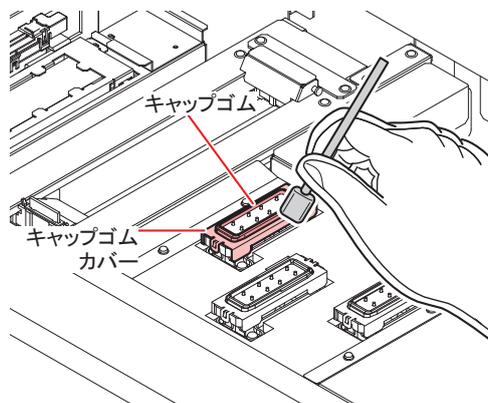
5 [ENTER]キーを押す。

キャップ クリーニング
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

- 重要!** ・キャップのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギへ) : ENT]が表示されます。手順6の作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。クリーニングが終了する前に[ENTER]キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

6 キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する。

- ・キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、F-200/LF-200メンテナンス液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。F-200/LF-200メンテナンス液は、残らないように拭き取ってください。
- ・このとき、自動的に排出路が洗浄されます。



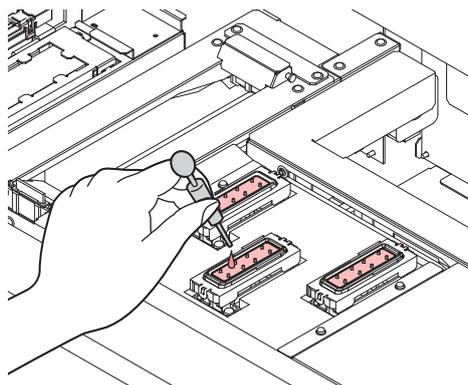
7 [ENTER]キーを押す。

センジョウエキラミタス
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

- 重要!** ・ 洗浄液を満たすまで、ディスプレイには[シュウリョウ (ツギへ) : ENT] が表示されます。手順8の作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。洗浄液を満たす前に[ENTER]キーを押すと、キャリッジが元の位置に戻ります。

8 スポイトにPR-200メンテナンス液(C-ML013-Z-B2-1-KW)をとり、PR-200搭載ヘッドのキャップにのみ一杯に満たす。

- ・ キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



9 ▲ ▼を押して放置時間を入力します。(FW Ver2.6以降より対応)

- ・ 推奨時間は1分です。

10 [ENTER]キーを押す。

- ・ キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- ・ キャップに洗浄液を放置している間、右の画面を表示します。
- ・ 放置時間が過ぎると、手順2の表示に戻ります。

シバラク オマチクダサイ
00:00

** クリーニング **
シバラク オマチクダサイ

11 PR-200搭載ヘッドに、ヘッドクリーニング(ハード)を1回実施する。

- (1) [END]キーを押して、ローカル画面を表示する。
- (2) [CLEANING]キーを押して、▲▼でクリーニング:ハードを選び、[ENTER]キーを押す。
- (3) ヘッドセンタクで、▲▼でヘッド3のみを選んで、[ENTER]キーを押す。

ヘッド センタク
__ 3

12 テストプリントをして、ノズルの状態を確認する。

- ・ ノズル抜けが見られる場合は、再度ノズルクリーニング(ハード)を実行し、ノズルの状態を確認してください。

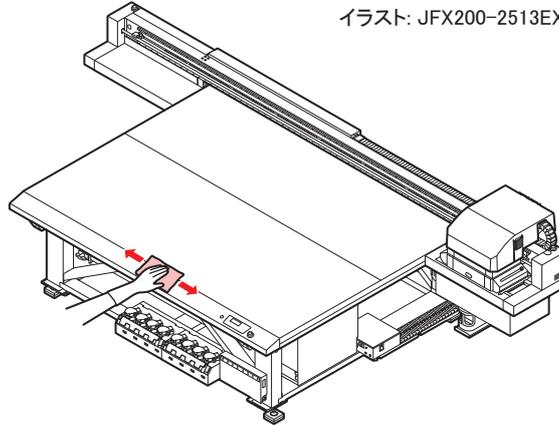
- 重要!** ・ この洗浄を3回繰り返してもノズル抜けが解消されない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

4. 1週間に1回行うお手入れ

外装のお手入れ

使用環境により、本体の外装には塵や砂埃が付着することがあります。ヘッド移動部へのホコリの進入を防ぐために、柔らかい布に水を含ませ、固く絞ってからふき取ってください。

イラスト: JFX200-2513EX



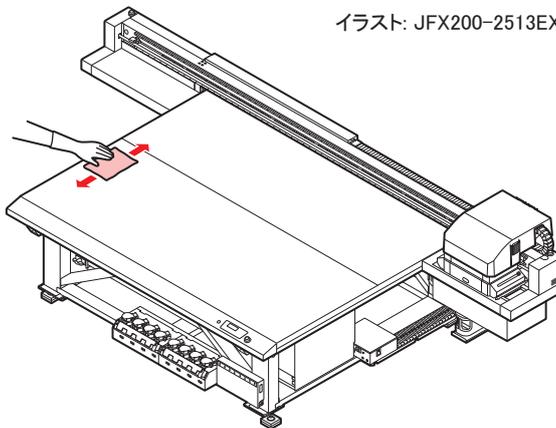
テーブルのお手入れ



- 主電源を切って電源ケーブルを抜いてからメンテナンスをしてください。

汚れたまま使い続けると、固まったインクや付着したホコリがヘッドノズル面をこすり付け、吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）の原因になります。

イラスト: JFX200-2513EX



- テーブル清掃に、アセトン等の有機溶剤を使用しないでください。テーブルが破損する恐れがあります。テーブルが破損した場合は現場での修復は不可能です。



- 本機の内部に液体が入らないように注意してください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。



- どうしてもIPAやエタノールを使用してテーブル面に付着したインクや色移りを清掃したい場合は、柔らかい布または、ペーパータオル等に有機溶剤を少量含ませてからふき取ってください。この時、テーブル内部に有機溶剤が絶対に染み込まないように注意してください。
- やわらかい毛のハケや乾いた布、ペーパータオルなどで、ゴミやインク固形物などをこまめに除去してください。
- 汚れが目立つときは、柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を含ませて、固く絞ってからふき取ってください。
- テーブル周囲の溝やネジ穴などは、特に汚れがたまりやすいため、こまめに清掃をしてください。
- 板面に硬化してしまったインクを、ヘラ等を使って除去することも可能ですが、板面をキズ付けないよう十分注意してください。

インク排出路の洗浄

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にインク排出路の洗浄をしてください。

- 1 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジ アウト [ENT]

- 2 ▲ ▼を押して、[ハイロ センジョウ]を選ぶ。

ハイロ センジョウ [ENT]

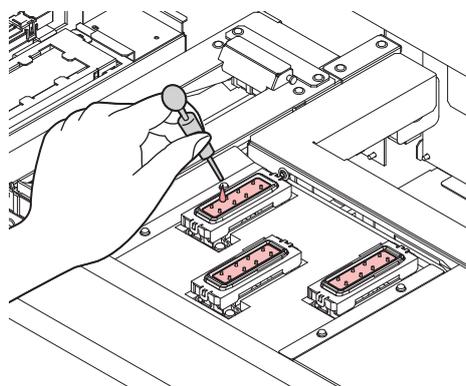
- 3 [ENTER]キーを押す。

- キャリッジがテーブル上に移動します。
- 空吸引動作を洗浄の作業が終わるまで繰り返し行います。

ハイロ センジョウ
シュウリョウ [ENT]

- 4 スポイトにメンテナンス用洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす。

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



- 5 [ENTER]キーを押す。

- 30秒間空吸引を実行した後、手順2の表示に戻ります。

ハイロ センジョウ
シバラク オマチクダサイ

廃インクを廃棄する



- 廃インクタンクを廃棄するときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。

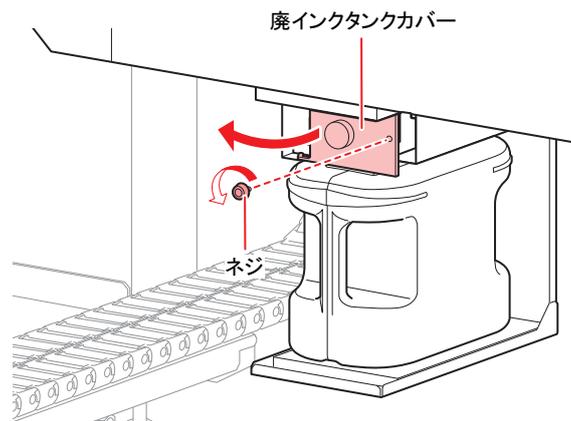


重要!

- 本機の動作中（プリント中またはクリーニング中）は、廃インクタンクの交換はしないでください。
- 作業中に廃インクがこぼれた場合は、ウエス等で拭き取ってください。

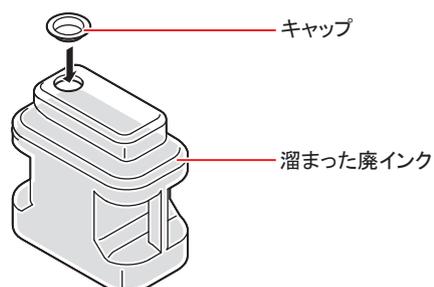
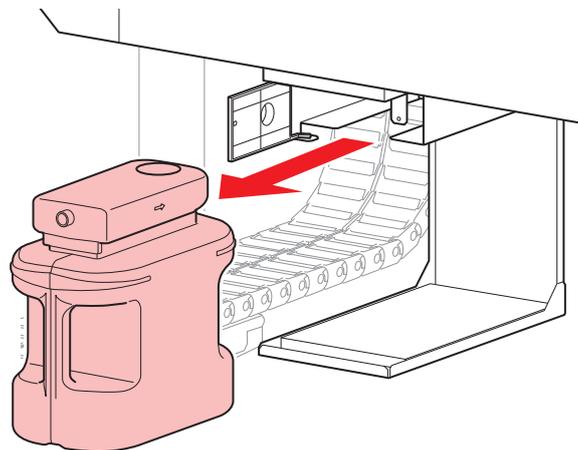
1 廃インクタンクカバーを開く。

- 廃インクタンクカバーについているネジを取り外し、カバーを手前に開けます。



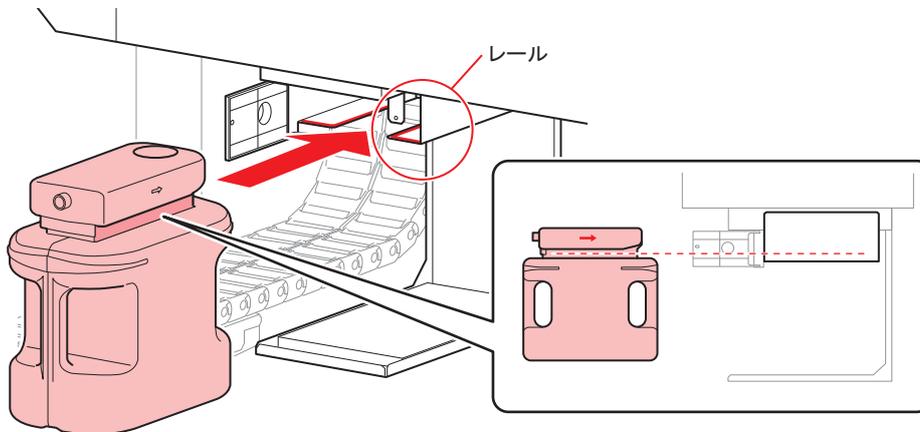
2 廃インクタンクを取り出す。

- (1) 廃インクタンクの取っ手を持ち、手前に引き出す。
- (2) 取り出した廃インクタンクにキャップをはめる。



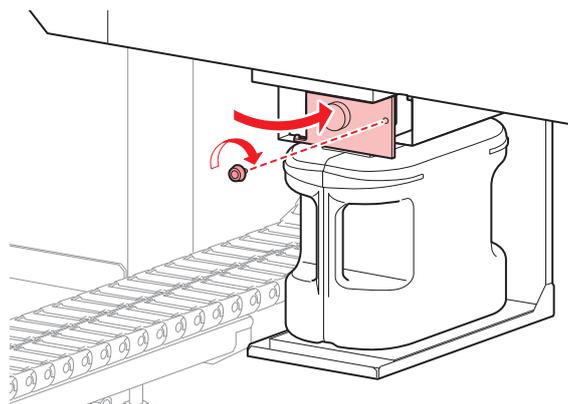
3 廃インクタンクを交換する。

- (1) 新しい廃インクタンクを用意する。
- (2) 廃インクタンクの取っ手を持ち、差し込む。
- (3) 廃インクタンクを持ち上げて排水口の真下にセットされているか確認する。



- 廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系（川等）、生活排水（トイレ、道路等）への漏洩流出を防いでください。

4 廃インクタンクカバーを閉じる。



5 メンテナンスメニューの[ハイ インクタンク コウカン]を選ぶ。

- (1) ローカルで、[FUNCTION]キーを押す。
- (2) ▲ ▼を押して[メンテナンス]を選び、[ENTER]キーを押す。
- (3) ▲ ▼を押して[ハイ インクタンク コウカン]を選ぶ。

メンテナンス
ハイインクタンクコウカン [ENT]

6 [ENTER]キーを押して、解除します。

ハイ インクタンク コウカン
コウカン [ENT]

ステーション周辺の清掃

画質や本機の状態を良好に保つため、こまめに清掃されることをお勧めします。

重要!

- 週に2回程度（プリンタの使用頻度により異なります）、ステーション周辺の清掃をしてください。
- 廃インクトレイに残っているインクがUV光により硬化すると、フラッシング時に吐出したインクが廃インクボトルに移動できなくなります。廃インクトレイはこまめに清掃されることをお勧めします。

1 ローカルで、[MAINT.]キーを押す。

キャリッジアウト

[ENT]

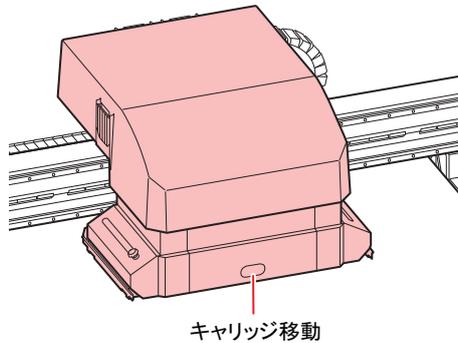
2 [ENTER]キーを押す。

イドウイチ

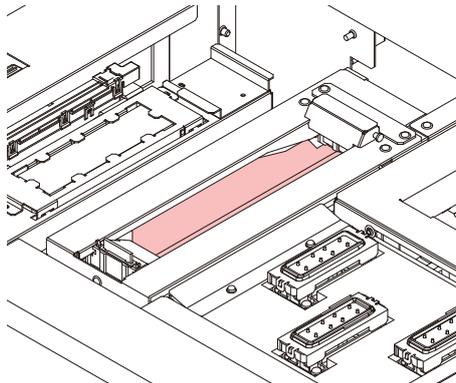
:ステーション メンテナンス

3 ▲ ▼を押して、[ステーション メンテナンス]を選び、[ENTER]キーを押す。

- キャリッジがテーブル上に移動します。
- 廃インクトレイを清掃してください。

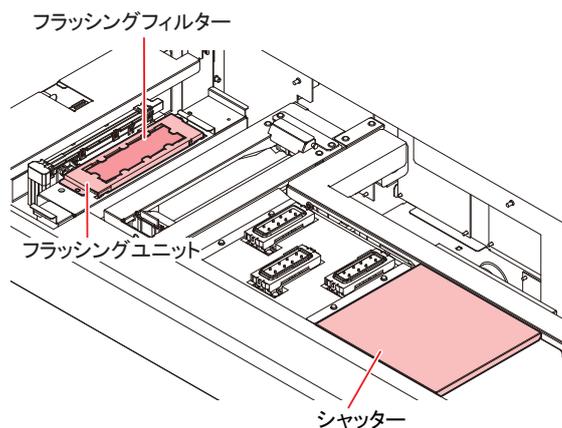
**4** ウェスなどを使って、廃インクトレイ周辺に付着したインクを拭き取る。

- 下図の灰色部分を清掃してください。
- インクが固着して拭き取れない場合は、へらなどを使ってこそぎ落としてください。



5 フラッシングユニットやシャッター部に付着したインクを拭き取る。

- クリーンスティックにメンテナンス用洗浄液を含ませ、付着したインクを拭き取ります。メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



-
- 重要!**
- フラッシングフィルターの表面が毛羽立っている場合は、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ってください。
 - 汚れがひどいときや、硬化してしまった場合は、フラッシングフィルターを交換してください。フラッシングフィルターについて
-

6 清掃が終了したら、[ENTER]キーを押す。

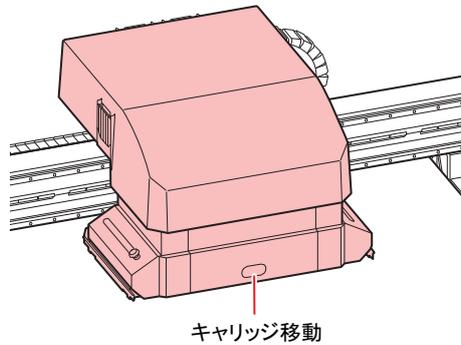
- 初期動作後、手順1の表示に戻ります。

5. 1～2週間に1回行うお手入れ

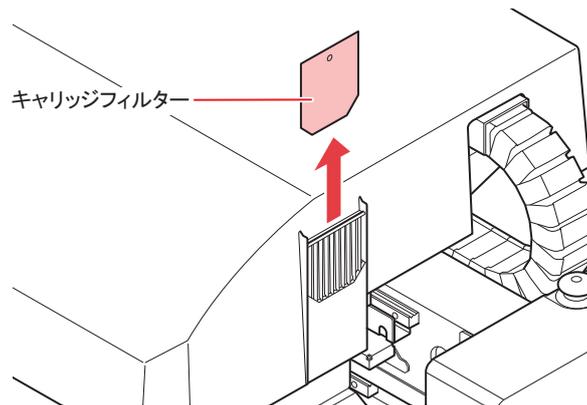
キャリッジフィルターの交換

1～2週間に一度交換してください。

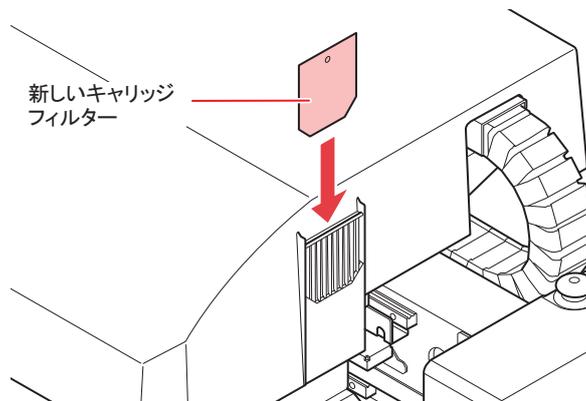
1 キャリッジを移動させる。



2 使用済みのキャリッジフィルターを取り外す。



3 新しいキャリッジフィルター（品番：SPC-0851）を取り付ける。



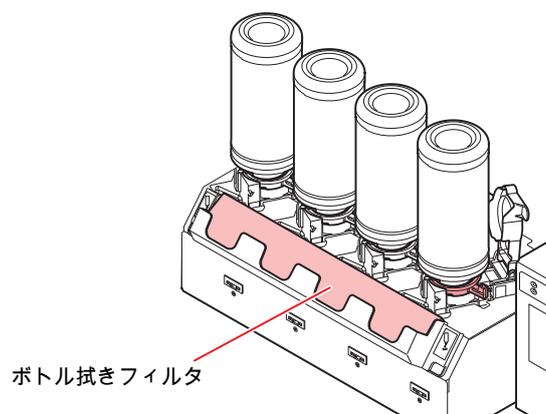
重要! ・ キャリッジフィルターはキャリッジの左右と背面にあります。
交換するときは、全てのフィルターを同時に交換してください。

4 交換が終了したら、[ENTER]キーを押す。

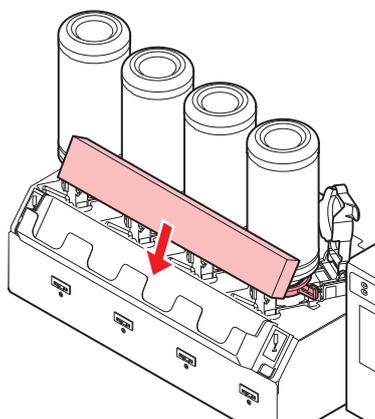
MBISのお手入れ

ボトル拭き取りフィルタ（品番：SPC-0820）の汚れが気になるときに交換してください。

- 1 ボトル拭き取りフィルタを取り出す。



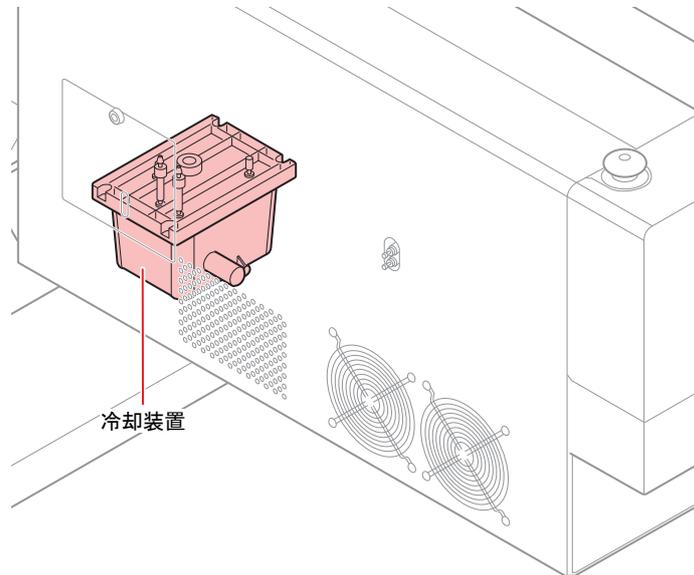
- 2 新しいボトル拭き取りフィルタ（品番：SPC-0820）を取り付ける。



6. エラーが表示されたら行うお手入れ

冷却水の補充について

LED UVユニット冷却のため、冷却装置内の冷却水タンクに、不凍液混合水を入れます。
水と不凍液（品番：SPC-0394）の混合液は、水2に対して不凍液1の割合にしてください。



● 補充に関する注意



- 水と不凍液の混合液は、水2に対して不凍液1の割合にしてください。
- 不凍液を入れず、水だけを冷却水タンクに入れた場合は、凍結などによりLED UVユニットが故障する原因になります。
- 水を入れず、不凍液だけを冷却水タンクに入れた場合、正常に動作せず、エラーになることがあります。
- 冷却水タンクの水不足が頻繁に起きる場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。



- 不凍液と混ぜた水は、使用している地域の条例に従って処分してください。



- 不凍液混合水に関する注意事項

(1) 以下の条件を満たした水を使用すること。

- カルシウム含有量：10mg / L（1mg / 100ml）以下
- 硬度：60mg / L以下
- 蒸留水または、精製水

(2) 不凍液混合水は、作り置きしないでください。

(3) 余った不凍液混合水は、1週間以内に使用してください。1週間以上経過した不凍液混合水を本機に注入すると、故障の原因になります。

● 不凍液の取り扱い上のご注意



- 不凍液は、弊社専用のものをご使用ください。他のものを使用すると、冷却装置が故障する恐れがあります。（交換用不凍液：1000cc×1本）
- 不凍液には直接触れないようにしてください。誤って不凍液が付いてしまったときは、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。万一、不凍液が目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- 不凍液は冷暗所で保存してください。
- 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 不用となった不凍液は、産業廃棄物処理業者に内容を明確にして処理を委託してください。
- 不凍液をご使用の前に、必ず安全データシート（SDS）をお読みください。



- 不凍液を取り扱う場合は、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。



- 廃冷却水タンク水を移すための、キャップ付きタンクをご用意ください。
- 冷却水タンクの水が不足すると、次のエラーを表示します。この場合は、冷却水を補充するを参照して、水を交換してください。

<ローカル>
ミズブソク

冷却水を補充する

水不足のエラーが発生したら、冷却水を補充してください。満水にするには、約500ccの補充が必要です。



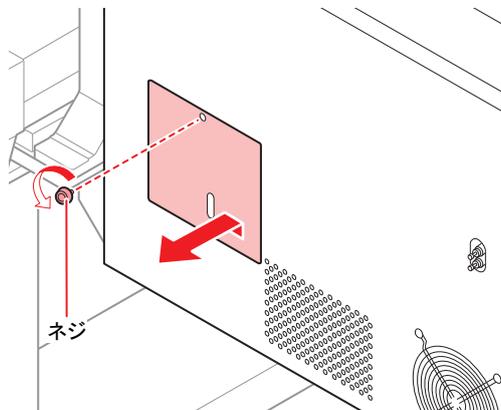
- 水不足のエラーが発生したまま冷却水を補充せずに1週間経過すると、ディスプレイのエラー表示が“ミズヲ ホジウ シテクダサイ”に切り替わります。このエラーを表示しているときは、リモートモードに切り替えることができなくなります。直ちに、冷却水を補充してください。

<ローカル>
ミズヲ ホジウ シテクダサイ

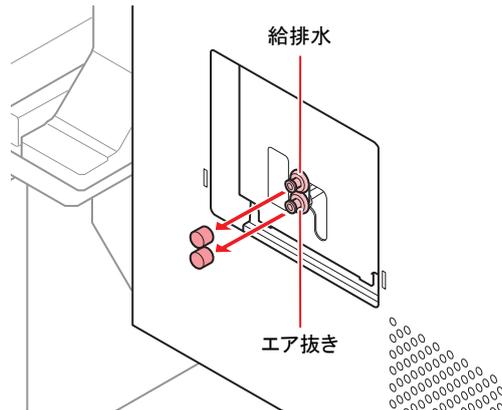
- “ミズヲ ホジウ シテクダサイ”が表示されている間は、ブザーが鳴り続きます。
- 水不足のエラーが発生したまま使用し続けているときにLED-UVの温度エラー/ワーニングが発生したときも“ミズヲ ホジウ シテクダサイ”に切り替わり、リモートモードに切り替えることができなくなります。

1 Yバー左側背面のカバーを外す。

- 図の丸部分のネジ（1箇所）を外して、カバーを取り外します。



2 給排水とエア抜きのフタを外す。

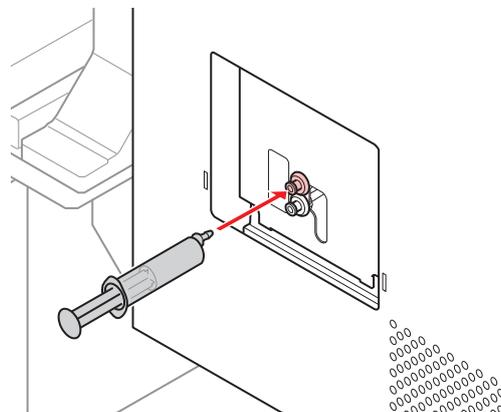


3 付属の容器で混合水（不凍液1、水2の割合）を作り、付属のシリンジに移す。



4 プザーが鳴りやむまで混合水を注入する。

- 混合水をシリンジで給水口から注入してください。
- プザー停止後、追加で100CC注入してください。



重要! • 混合水を注入しすぎると、混合水がタンクから漏れてしまいます。

5 給水口とエア抜きのフタを閉め、Yバー左側背面のカバーを取り付ける。

ワイパーを交換する

ワイパーは消耗品です。下のメッセージが表示されたら、速やかにワイパーを交換してください。また、スライダー下面に付着したインクの清掃をしてください。

<ローカル>
ワイパー コウカン [MNT]

重要! ・ クリーニングワイパーは別売品です。お近くの販売店、または弊社営業所でお求めください。

1 メッセージが表示されたら、[ENTER]キーを押す。

ワイパー コウカン
ジッコウ [ENT]

2 [ENTER]キーを押す。

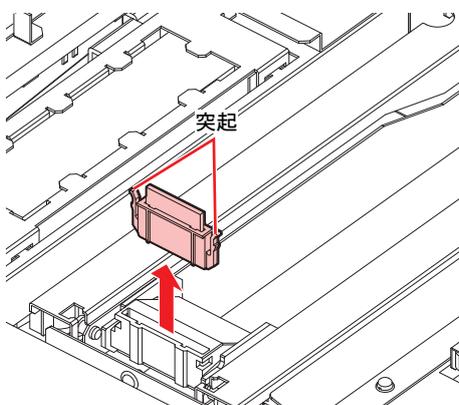
- ・ キャリッジがテーブル上に移動します。

ワイパー コウカン
シュウリョウ [ENT]

重要! ・ 交換作業が終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ :ENT] が表示されます。手順4までの作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。

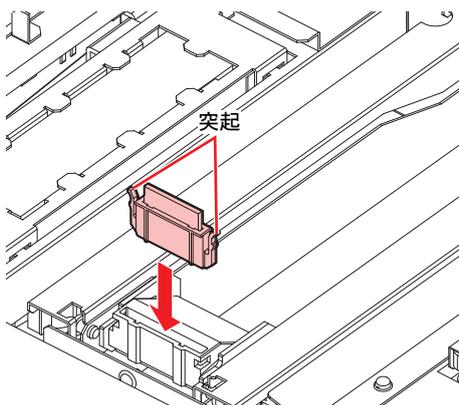
3 ワイパーを取り出す

- ・ ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



4 新しいワイパーを差し込む

- ・ ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



5 [ENTER]キーを押す。

- ・ 初期動作後、ローカルに戻ります。

* ショキカ チュウ *
シバラク オマチクダサイ

7. 必要に応じて行うお手入れ

LED UVユニットの清掃

LED UVに付着したインクやホコリなどを定期的に清掃してください。

- 重要!**
- LED UVの清掃時には、ユニット下面の照射部を傷つけないように注意して、丁寧に清掃してください。照射部に一定以上の汚れや遮光物があると、インクの硬化不良によるバンディングが発生する原因になります。

イオナイザーのお手入れ

イオナイザー（オプション）の取扱説明書に従って、メンテナンスを行ってください。

インクボトルキャップの交換

1年を目安に交換してください。交換方法はインクボトルを交換するを参照してください。



- インクやメンテナンス液、廃インク、そのほか本機で使用されている液体を取り扱うときは、換気に十分注意して、必ず保護メガネ、手袋、マスクなどを着用してください。インクなどの液体が跳ねて、皮膚に付着したり、目や口の中に入ったりするおそれがあります。



JFX200-2513EX /JFX200-1213EX お手入れのお願い

2025年8月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒389-0512
長野県東御市滋野乙2182-3

